

早慶ライブラリーパスポート

－協定入館の発展－

おおた りお
太田 梨緒

(薬学メディアセンター)

1 はじめに

「早慶ライブラリーパスポート」(以下「パスポート」とする)は、早稲田大学(以下「早稲田」とする)と慶應義塾大学(以下「慶應」とする)の図書館が2024年4月¹⁾から共同で開始したサービスである。対象は、通学課程の学部生・大学院生、常勤教職員および名誉教授で、所属大学の学生証あるいは教職員証等を持参し、相手校図書館の入館ゲートにかざすと「まるで自校の図書館に入るかのように相手校の図書館へも入ること」ができる²⁾。早稲田は、中央図書館・戸山図書館・理工学図書館・理工学生読書室・所沢図書館、慶應は三田・日吉・信濃町・理工学・湘南藤沢の各メディアセンターに入館可能である。本サービスについて構想し始めたのは2022年9月頃で、早稲田の図書館利用者支援課と慶應の三田メディアセンター閲覧担当³⁾、両校の図書館システム部門で検討を重ねた。

2 これまでのサービス

遡ること約40年前、1986年に早慶の図書館相互利用に関する協定が結ばれ、互いの構成員に対するサービスが始まった⁴⁾。利用を希望する常勤教職員は、相手校に図書館カードを発行してもらうことで訪問時に紹介状が不要となり、資料の貸出も可能となった。2001年からは通学課程の学生にもサービスを広げ、自校の学生証を提示すれば入館、資料閲覧ができるようになった⁵⁾。ただし、入館には都度手続きしたうえで当日限定のゲート通過用の入退館カードを借りる必要があり、シームレスな利用とはいかなかった。慶應の図書館に初めてやってきた早稲田の学生が、入館ゲートに学生証をかざしてみても、エラー反応に戸惑った様子で手続きの案内を受けるという姿を何度も目にした。教員や友人から「早慶の学生証でお互いの図書館に入れるよ」と聞いて、自校の図書館と変わらぬ手軽さで入館できると思って来たのだろう。

3 実現までの道のり

本サービスでは、まさに学生のイメージするスムーズな相互入館を実現することができた。しかし、実のところ初めからこのようなサービスを目指してプロジェクトが始まったわけではない。もう一方の資料の相互利用を容易にする新サービス「早慶ライブラリーブックシェア」(以下「ブックシェア」とする)の検討を主として行う中で出てきた「もし資料の貸出が自校の教職員証等を使ってできるようになるのであれば、入館も同様にできたら理想的ではないか」というアイディアが発端である。新型コロナウイルス感染症拡大の状況が落ち着き始め、停止していた従来の協定入館を再開して少し経った頃であった。

当初は、相手校の利用希望者に個別発行する従来の図書館カードを維持するか、あるいは入館専用のカードを新たに発行するか、が有力候補として考えられていた。ブックシェア対象者は貸出のみ自校の教職員証等で可能になる一方、入館には別のカードを持参してもらうことになってしまうが、これまでの運用をあまり変えずに済むという点で現実的な選択肢であった。対して、理想としては、それぞれが相手校の所属者に発行していた従来の図書館カードの運用を中止し、自校の学生証・教職員証1枚で相互に入館を認める方法だが、これには様々なハードルや懸念があった。特に、お互いのゲートで相手校が発行したカードを読み取って入館可否を判定することは、技術的に非常に難しい、あるいは不可能ではないかと思われた。プログラムを変更するならば両校で業者への作業委託費用も発生する。複雑な仕様・設定の念入りな確認も必要だ。

しかし、このような理想を現実にするチャンスはもう訪れないのではないかと思うと欲が出てきた。諦めきれずに早稲田大学図書館のSNSを眺めていたところ、入館ゲートの写真を発見した。慶應のものとそっくりではないか。改めて確認したとこ



図1 入館ゲート（三田メディアセンター）

ろ、早慶ともに2社からゲートを導入しており、なんと、そのどちらも同じメーカーであることが分かった（図1）。細かい仕様や設定の違いはあるが、一縷の望みにかけて、検討用資料に理想案をねじこむことにした（図2）。

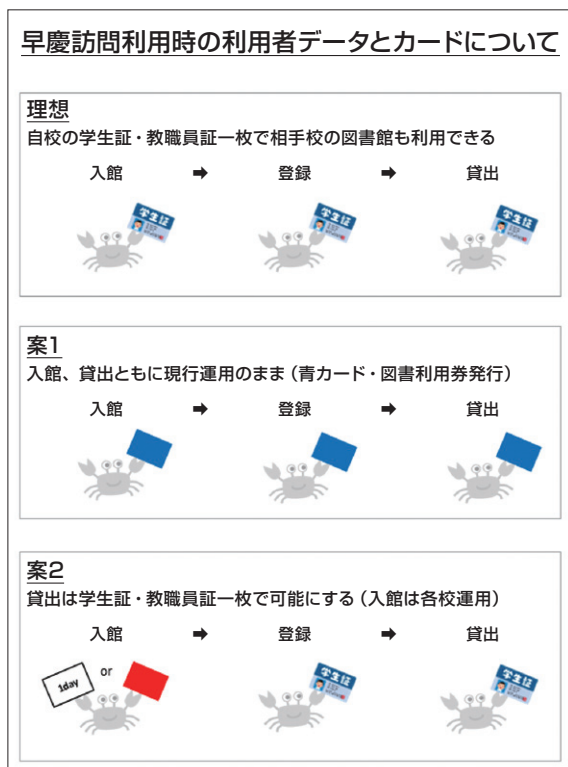


図2 検討用資料の一部（通称「カニの文書」）

いざ動き始めると、両校の細かい仕様や設定の違いに非常に苦しめられることになった。しかし、系列でもない2つの大学の、全く仕様の異なるICカードを読み取り合うという前例のないプログラム改修を引き受けてくださったゲートメーカー関係者のお

かげで実現が相成った。早慶と各ゲートメーカーによる打合せを何度か設け、細かい設定の相談はメールでやり取りを重ねていった。両校ともゲートに独自のID変換プログラムを搭載していた事情もあり、改修は決して簡単なものではなかった。素人では理解が及ばない部分も多く、慶應側はメディアセンター本部システム担当に仕切ってもらいながら、協定入館サービスを行う各メディアセンターのゲート管理担当者はもちろんのこと、カードの仕様確認では発行元の学内担当部署にもご協力いただいた。

4 広報

2つの新サービスを利用者に広く周知し、たくさん使ってもらうため、サービス名称（愛称）をつけることにした。関係者にアイデアを募ったり生成AIに提案させたりして、以下の候補が集まった。当初候補に挙がったのは、早慶ライブラリーコネク、ユナイト、ユナイテッド、リンク、ブリッジ、コンソーシアム等で2つのサービスをまとめた名称であった。しかし、それぞれサービス対象者が異なるため、2つを別にネーミングした早稲田考案のパスポート、ブックシェアがしっくりきた。

学内向け広報^{6) 7)}はそれぞれ図書館のWebニュースに掲載した。プレスリリースは両校の広報担当部署に相談しながら共通の文面を作成した。その内容はカレントアウェアネス⁸⁾や日本経済新聞⁹⁾にも取り上げられ、SNSでも学内外から反響があった。

5 利用実態

サービスを開始した2024年度の入館者数を見てみると、慶應の図書館に入った早稲田所属者はのべ2,394人¹⁰⁾であるのに対し、早稲田の図書館に入った慶應所属者は、のべ8,581人に上った。多くの慶應所属者がこのサービスを利用しているのは、早稲田では日曜日でも開館していることが理由として考えられる。慶應では、日曜日は信濃町メディアセンターを除いて原則休館しており、期末試験期など一部の期間に限って開館している。早稲田の担当者からは、実際に土日にも慶應所属者が多く入館していると聞いている。

入館者の身分は、やはり両校とも学部生・大学院生が多数を占め、特に期末試験期である7月と1月の利用が突出している。次いで6月、11月の利用も

多い。2月は慶應の側で入試や蔵書点検による休館日が多いこともあり、慶應所属者が早稲田に居場所を求めたようだ。教員は傾向が異なり、早稲田教員の慶應への入館は、授業がない夏・春休み期間に増えている。2024年11月は、ブックシェアの対象身分を大学院生に広げ、プレスリリースを出した影響もあってか、早稲田の大学院生の利用が最も多い月となった。

早稲田では、慶應所属者の入館先は中央図書館が最も多く、年度内入館者数はのべ7,567名と総数の9割近くを占めている。一方、慶應では、早稲田所属者の3割が三田メディアセンターへ、6割強が日吉メディアセンターへ入館していて、やや分散傾向が見られる。日吉メディアセンターへの入館が多いのは、駅からほど近い立地と、早稲田の図書館が無い神奈川方面に位置していることが理由であろう。対して、早稲田の所沢図書館は慶應の図書館が無い埼玉方面に位置し、慶應教員の利用が見られ、それぞれのエリアを互いにカバーし合う形になっている。

利用傾向は2025年度に入っても尻すぼみになることはなく、前年に比べ早慶それぞれ入館者数が増加している。今後もさらに利用を促進し、ニーズを満たし合うことができれば幸いである。

6 おわりに

パスポートは副次的なサービスとして検討を始めたが、最終的には新サービスの柱のひとつとなった。ブックシェアがサービス対象を常勤教職員、大学院生のみとしているのに対して、パスポートは学部生も対象に含むため、より多くの人に早慶の協定にもとづくサービスを認識してもらうことができてよかったと感じている。今後の課題として、学生証や教職員証の券面や形態に変更があった場合の対応が挙げられる。カードに何らかの変更が発生する場合には、自校だけではなく、両校で調整が必要であることを認識しておきたい。

注・参考文献

- 1) 三田メディアセンターは他のメディアセンターに先んじてゲート改修が済み、2023年10月から実験的に早稲田大学所属者の入館運用を開始していた。早慶ともに準備が整った図書館から2024年4月以降に試行運用開始、2025年4月からサービスを実施するすべての図書館で本運用

を開始した。

- 2) “プレスリリース 早慶の図書館連携をさらに強化―「早慶ライブラリーブックシェア」・「早慶ライブラリーパスポート」の開始―”. 早稲田大学, 慶應義塾大学.
<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2024/11/6/28-163092/>
- 3) 筆者は当時、三田メディアセンターの閲覧担当に所属しており、入館ゲートや利用者情報の管理業務担当者として本サービスに携わった。
- 4) 慶應義塾大学 メディアセンター. 慶應義塾図書館史. II. 東京, 慶應義塾大学メディアセンター, 2023, 337p.
- 5) ICカードの教職員証発行が始まってからは、常勤教職員も学生同様に自校の教職員証提示で入館のみ可能となった。
- 6) “「早慶間取寄せ貸出」・「学生証・教職員証による相互入館」サービスの開始 (2024年4月1日～)”. 早稲田大学図書館.
<https://www.waseda.jp/library/news/2024/11/06/21492/>
- 7) “「早慶間取寄せ貸出」・「学生証・教職員証による相互入館」サービスの開始 (2024年4月1日～)”. 慶應義塾大学メディアセンター.
https://www.lib.keio.ac.jp/news/008336_Jp.html
- 8) “早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンター、相互資料取寄せ貸出しサービス「早慶ライブラリーブックシェア」の対象を拡大”. カレントアウェアネス.
<https://current.ndl.go.jp/car/229402>
- 9) “早大と慶大、図書館連携をさらに強化し「早慶ライブラリーブックシェア」・「早慶ライブラリーパスポート」を開始”. 日本経済新聞.
https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP681438_W4A101C2000000/
- 10) パスポートとは異なる手続きで慶應の図書館に入館する早稲田所属者もいたため、協定全体による入館者数はさらに多い。